

社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校  
2020年度 第2回教育課程編成委員会議事録

1. 日時 令和3年3月22日(月) 15:00~16:30

2. 場所 尾道福祉専門学校207室

3. 出席者

広島国際大学 健康科学部 教授 久保田トミ子氏

社会福祉法人泰清会 サンライズマリン瀬戸 施設長 久保田あけみ氏

校長 工藤博道 教務主任 金子清美

4. 議題

①はじめに

校長より、新型コロナウイルスによる感染状況を鑑みながら今年度のカリキュラム等の説明を行う。特に、施設実習の実施について、新年度はPCR検査が実習前に必要である状況や助言をいただき、実施の検討に入る。

資料、入学状況一覧表にて入学者数の推移や市町別の学生数の説明を行う。福山方面の学生が増えている。留学生1名が今年度卒業したこと、また、ベトナム人の留学生が2名入学することを説明する。

出席の施設長様から、インドネシア人の職員がいるが、素直で一生懸命に仕事に取り組む姿勢があり、自然とサポートしたいという気持ちになっているとの話がある。

大学での留学生の状況の話があり、日本の学生にとっても良い影響になっていることや、グローバル化への柔軟な対応が求められていることについて話を伺う。

今年度の就職状況の説明を行う。特別養護老人ホームへの就職者が多いこと、地元就職する学生が多いことを説明する。

前回の会議で出たが、課題として、新年度も感染対策による密接を避けるために、教室や実習室の広さに対しての学生数の状況を考え、授業を2回に分けるなどの対策が必要となる。

②カリキュラム等について

生活支援技術でのまとめとして、実技試験で、法人内を含め職員さんや卒業生の協力を得て、利用者役や評価者になっていただいたことを紹介する。

大学の状況も紹介され、教えることは学ぶことであり、自分たちの先輩の姿が見えづらい中で、このような取り組みは、お互いのモチベーションが上がり、数年後に働くイメージがわいてくるので、効果的であるとのことがあった。

大学での外国人教育で、専門の講師に5日間の日本語特訓の教室を行ったことを紹介していただいた。ここで分かったことは、読むこと、書くこと等いろいろな方面から揺さぶりをかけると、実際にはわかっていないことが各所にあることが分かった。日本語研修の後、介護導入研修42時間を実施するのに非常に参考になった。

日本語を使う状況をつくっていくことが、日本語力を高めることにつながる。生活感覚や文化の違いはあり、違いに慣れて、異質な人への許容が問われている状況がある。

また、方言の理解は難しいようである。外国人の受け入れに当たり、手続き、通帳、アパートなど、日本人の保証人が必要となり、閉鎖的なシステムがある。解決して受け入れ態勢を整えていく必要がある。

アンガーマネジメントの授業の必要性を話す。自己肯定感が低い状況の人が多く、自己を知り、相手の背景を知るきっかけとなる。起こりうる事象を理解することが利用者理解につながる。感情的になった時に6秒待つことや、反射的な行動を避けることなど、アンガーマネジメントをゲーム的に体験していくこともしている。知識や教育不足を補うと同時に、感情のコントロールに活かされる。大学での教育にも取り入れていく予定である。本校でも、取り入れていくことを検討する。

### ③実務者研修の実施状況について

金子：2020年度の参加状況の説明を行う。本年は、28名の受講生である。去年は22名である。受講生のアンケートでは、おおむね満足する研修内容であったとのことである。国試受験結果が3/26となり、結果が待たれる。

校長より、今回のご意見をまた今後の教育に活かしていけるよう、新年度も取り組んでいきたいと思っており、引き続き教育課程編成委員として、ご意見やご協力をいただく。